

# 外部評価報告書

平成29年2月



## はじめに

大阪大谷大学は、平成21年度に現在の公益財団法人日本高等教育評価機構（以下、「評価機構」という。）による認証評価の結果、平成22年3月に評価機構が定める「大学評価基準を満たしている」と認定されました。また、今年度は、前回に引き続き、評価機構による認証評価を受審し、本年3月にはその評価結果が確定するものと思われま

さらに、大学の運営を適切に行うためには、大学として自己点検・評価をきちんと実施する必要もあります。最近はそれに加えて、地域社会や産業界、卒業生、他大学の有識者等の外部からの視点で評価を行うことが求められてきていることから、本学は、今年度、「大阪大谷大学外部評価委員会」（以下、「外部評価委員会」という。）を設置いたしました。

外部評価委員には、以下5名の方々にご就任いただき、本学の「平成28（2016）年度自己点検評価書」を基に、2回にわたり外部評価委員会を開催いたしました。

### 外部評価委員会委員（敬称略）

委員長 水野 豊	京都光華女子大学 京都光華女子大学短期大学部 副学長 キャリア形成学部長、EM・IR部長
赤坂 秀則	近鉄不動産株式会社 代表取締役社長
多賀谷 津也子	大阪芸術大学 図書館課長
竹綱 啓一	富田林市 副市長
山根 眞一	大阪府立河南高等学校 校長

### 第1回 外部評価委員会

日 時：平成28年11月21日 13：00～15：00

内 容：外部評価の実施要領説明、本学の概要及び自己点検・評価の取り組み説明  
本学の取り組みに対する評価 等

出席者：外部評価委員（5名）、本学関係者（学長、学長補佐2名、その他教職員10名）

資 料：平成28年度 大阪大谷大学外部評価 実施要領、大阪大谷大学外部評価委員会規程  
大阪大谷大学の概要、平成28年度自己点検評価書[要約版]

### 第2回 外部評価委員会

日 時：平成29年 2月 7日 15：30～17：00

内 容：外部評価委員の意見集約、外部評価報告書（案）の審議 等

出席者：外部評価委員（5名）、本学関係者（学長、学長補佐2名、その他教職員10名）

資 料：外部評価報告書（案）

本学では、この評価結果を貴重なご意見として、今後の大学運営に活かしていく所存でございます。最後になりましたが、本学の外部評価のために貴重なお時間を頂戴した委員の先生方に改めて心から御礼申し上げます。

平成29年2月

大阪大谷大学  
学長 尾山 眞之助

# 平成28（2016）年度 外部評価委員会による外部評価報告書

## I. 総括評価

大阪大谷大学の建学の精神である「報恩感謝」は、現代社会の中で失われてはいけない最も大切なものであり、それに基づく3つの教育理念「自立」「創造」「共生」は、全ての人間社会の営みにおいて強く求められていることである。こうした精神や理念に基づく能力や態度が、少人数のきめ細やかな指導を通して、これからの社会を担う学生達に育まれることは、良好な社会形成にとって大いに意義がある。

社会の現場における実習やボランティア、フィールドワークなど「本物にふれる」機会をいくつも設定し、大学の授業とつなげて専門性を深めている。また、多様な免許や資格が取得できる環境が整備されているため、学生が多くの選択肢の中から、自らの進路を選択することができ、社会的、職業的自立や社会活動参加の大きな一助になっている。

全ての学部、学科において収容定員及び入学定員が満たされていることは、大学の教育に対する社会的な信頼と評価の表れとして極めて高く評価できる。

学修支援については、アドバイザー制度、大学院生等の活用、教職教育センターによる教職希望者への支援、薬学教育支援・開発センターなど、課題に応じて必要な措置がとられている。

また、教育目的の達成状況を把握・点検し、教育内容・方法及び学修指導等の改善を図るため、毎年「学生による授業評価アンケート」をはじめとする各種アンケートを実施し、授業改善に活かしていることは評価できる。しかし、その結果を学生に対してどのように公開しフィードバックしていくかの検討が必要である。

さらに、教育の質の向上を図るべく、各種アンケートについては定期的に実施されているが、教育効果を把握し、改善を図っていくためには、学修成果の把握・分析・評価活動の一層の充実が望まれる。

大学の管理・運営においては、極めて良好な経営状況であり、大学の運営が、組織間や教職員間での情報共有や十分なコミュニケーションの下で進められている。また、意思決定についても、学長のリーダーシップと関係教職員によるボトムアップの適正なバランスの下で、迅速かつ民主的な対応が図られている。

自治体との連携協力、行政プロジェクトへの参加、講師派遣、地域との連携、各種ボランティア活動、地域おこしなど様々な分野で、知的資源や人的資源を活かした取り組みが行われており、地域の発展や再生等に大きく貢献している。また、学生の様々な地域連携活動が、大阪大谷大学の体験を重視する教育に有機的に組み入れられており、地域とも良好な関係で行われている。

自己点検・評価活動については、全学規模の自己点検・評価委員会以外にも、各学部・大学院・事務局の自己点検・評価委員会を設けるなど、大学として自ら教育研究水準の向上や活性化に努め、その社会的責任を果たしている。

総じて、各項目における改善点は見受けられるものの、大阪大谷大学の自己点検・評価活動を通じた様々な取り組みは、概ね成果が上がっていると評価する。

## Ⅱ. 評価できる点

- 建学の精神「報恩感謝」の心を拠り所として、学識、情操、品性にすぐれた人材を育成し、社会の発展と文化の向上に寄与すること、また、「自立」「創造」「共生」という「教育理念」は、人間としてのあるべき姿を体現するために必要なことであり、大学の使命・目的、教育理念については、大学便覧、大学ホームページ等を通じて、教職員、学生といった大学構成員のみならず幅広く周知が図られている。さらに、創立50周年を迎えるに当たり策定された第1期長期計画「OSAKA OHTANI VISION 2025」において、「報恩感謝」の心を正課・課外活動を通じて学生に深く身につけさせることが明示されていることから建学の精神に基づく教育が日々実践されていると認められる。
- 教育力向上のための組織的な活動、とりわけ授業改善については、学生の授業評価以外にDVDを活用した教員による授業評価が組織的、継続的に行われており、学修支援についても、成績を5段階で評価し、1単位あたりの評定平均値を算出するGPA制度の導入を契機に成績が振るわない学生に対する学修指導・相談を組織的に行っていることは、有意義な試みである。
- 大学ガバナンス改革等大学の管理運営の在り方は、大学において主体的に検討し、必要に応じて見直されるべき事柄であり、その改善努力が払われている。
- 地域連携については、多岐にわたる地域社会貢献・連携等の取り組みを実施するとともに、それらの内容を大学ホームページに掲載している。卒業生も教育分野をはじめ地域で幅広く活躍していることは、教育の成功の表れであり、大学が地域の発展に欠かせない存在として発展している証でもあり、大いに評価できる。
- 長年に亘って、教員採用試験に多くの合格者を出し、地域の教育の発展に多大な貢献をしてきた。さらに、卒業後の現職教員の更なるレベルアップを目的として、各種研修会等リカレント教育を積極的に実施し、学習の機会を設けて、より活躍できるよう継続して支援していることは評価できる。
- 自己点検・評価活動については、自己点検・評価に関する規程を見直すなど、自己点検・評価を推進するための体制は整備されている。また、教育力向上のための組織的な取り組みとその結果、評価を記録したFD報告書の作成や学修行動調査、学生生活実態調査など各種アンケートが定期的実施されていること、「学生による授業評価アンケート」の実施にとどまらず、「授業評価考察シート」の提出や「教員による授業評価アンケート」の実施とその後のDVDでの自身の授業評価等の取り組みは、非常に評価できる。

### Ⅲ. 改善を要する点

- 建学の精神や教育理念をはじめ、大学の様々な方針については、あらゆる機会を通じて教職員に周知徹底が図られているが、それらの方針を具現化するためには、全教職員が共有し理解・浸透させることも必要である。
- 「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者受入れの方針」を具現化した学位プログラムを機能させるために、学位授与プログラム単位ごとに教育力向上のための組織的な活動を推進し、その成果を大学全体で共有できる仕組み作りが望まれる。
- キャリア教育・就職指導については、進学者を除く卒業生数に対する就職者数の割合は、年々改善が図られているものの、一層の就職支援の充実を求める。
- 大学が自ら主体的に教育の質の向上を目指す仕組みを構築するためには、学修成果のアセスメントに必要な情報の蓄積と評価指標の設定、評価方法の体系化と質向上のためのPDCAサイクルの確立が大切である。また、教育内容・方法及び学修指導等の改善を図るため、教員相互による授業評価の実施も望まれる。
- 質の高い教育活動や学生支援等、大学キャンパスに求められる機能・役割は重要である。そのため、老朽化が進んでいる建物を中心とした計画的な整備・改修とともに、ラーニング・コモンズなどの主体的な学習スペースの確保や図書館の開館時間の延長の検討が望まれる。
- 大学院については、社会人の受け入れ促進について、一層の努力が必要である。

## IV. その他提言等

- 専攻分野について優れた知識及び経験等を有する教員の採用や図書館・博物館における学術情報収集機能等の強化、さらに多様な資格を取得できる機会を用意するなど引き続き教育内容の充実を図ることが必要である。
- 学生が、インターンシップやボランティア等に参加し、社会の中で相手を思いやる気持ちを、自ら経験することは学生が社会人になるうえで重要なことである。今後も、そのような経験ができる授業の充実が望まれる。
- 総合学園に設置されている大学として期待される役割を一層果たしていくために、各学校園との相互連携の更なる充実が望まれる。また、社会から信頼される大学として、全教職員を対象としたコンプライアンス研修の徹底や義務付けを行うことも重要である。
- 女性活躍推進法に基づき、女性が活躍できる労働環境の整備を図り、大谷学園の活性化に必要な人材を育成するための、「行動計画」の策定が必要である。また、それらを広く社会に公表することで大学の先進性をよりPRできる。
- 富田林市の幼稚園・小学校をはじめとする教育機関には、大阪大谷大学の卒業生も多いことから今後も大学全体の組織的な取り組みの中で質の高い教育活動とともに、優秀な人材の輩出を期待する。また、高齢社会における、生涯学習の拠点としての役割を担うことができるよう一層取り組んでいくことが求められる。
- 大阪大谷大学は、富田林市をはじめとする地域からの期待の高まりを認識し、今後も地域に開かれた大学として使命を果たすことが、より一層必要とされている。

### 外部評価委員

- 委員長 水野 豊
- 委員 赤坂 秀則
- 委員 多賀谷 津也子
- 委員 竹綱 啓一
- 委員 山根 眞一

---

大 阪 大 谷 大 学  
外 部 評 価 報 告 書

平成29年2月発行

編集発行 大阪大谷大学 学長室大学企画課  
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3-11-1  
TEL 0721-24-1061 FAX 0721-24-4782

---